

# 高校生野球部の指導者のリーダーシップに関する研究～第二報～

丸山 雷太 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 小笠原 悦子

リーダーシップ 高校野球指導者 理想と現実

## 1. 緒言

全国高等学校野球選手権大会は2010年で92回目の開催となり、出場チームは4000を超えている。各高校には指導者が必ず存在する。指導者によって指導方法は多種多様である。

本研究の目的は、高校野球部の選手が指導者に求めるリーダーシップと、実際に指導者が行っているリーダーシップとの間にどのような差が生じているのかを明らかにすることであった。また、高校生年代における指導者のリーダーシップに関する研究(後藤, 2008)では行われていない個人的属性と指導者のリーダーシップ行動との関係を検証することであった。

## 2. 研究方法

【調査方法】各チームの選手とその指導者に質問紙によるアンケート調査を行った。

【調査対象者】O府下の5校の高校野球部の選手(154人)とその指導者(5人)であった。

【調査期間】2010年9月上旬から9月下旬の1ヶ月間。

【調査内容】調査対象者の個人的属性と、Chelladurai (1993)によって提起されたLSS (Leadership Scale for Sports)の5局面(TI, DB, AB, SS, PF)の指導者のリーダーシップ行動特性に関する計40項目。詳細は以下の通りである。

1) 選手: 個人属性(11項目)、理想のリーダーシップ行動と実際の指導者のリーダーシップ行動(各40項目)。

2) 指導者: 個人的属性(9項目)、指導者自身の実際のリーダーシップ行動(40項目)。

【分析方法】SPSSを用いて単純集計、信頼性

分析、t検定、MANOVAを行った。

## 3. 結果と考察

表1は中学時代の所属チーム別のリーダーシップ行動に関する調査結果の一覧である。

表1. 中学時代の所属チーム別の指導者のリーダーシップ行動(5局面)の評価得点の平均値と標準偏差、F値、有意確率の一覧 n=150

5局面	クラブチーム (A)	部活動 (B)	その他 (C)	F	
理想 TI	3.60 (0.44)	3.89 (0.48)	4.01 (0.52)	5.64	**
理想 DB	3.51 (0.51)	3.50 (0.64)	4.04 (0.56)	3.26	*
理想 AB	2.39 (0.78)	2.37 (0.68)	2.17 (0.87)	0.38	
理想 SS	3.05 (0.69)	3.36 (0.78)	3.92 (0.72)	5.20	**
理想 PF	3.73 (0.71)	3.88 (0.57)	4.40 (0.51)	4.26	*
現実 TI	3.23 (0.57)	3.44 (0.58)	3.90 (0.51)	4.94	**
現実 DB	2.86 (0.60)	3.12 (0.78)	3.77 (0.51)	5.51	**
現実 AB	2.87 (1.00)	2.74 (0.99)	2.42 (0.91)	0.82	
現実 SS	2.19 (0.69)	2.53 (0.73)	3.13 (0.53)	7.73	**
現実 PF	3.38 (0.82)	3.60 (1.02)	4.07 (0.77)	3.83	*

( ) 標準偏差 \*\*p<.01 \*p<.05

理想因子 Overall MANOVA test Wilk's Lamda=.86 F(10,284)=2.21 p<.01

現実因子 Overall MANOVA test Wilk's Lamda=.86 F(10,276)=2.08 p<.01

中学時代の所属チーム別に、選手が考える理想と現実の指導者のリーダーシップ行動を比較した結果、選手が求めるリーダーシップ行動が所属チーム別で異なっていることが明らかとなった。現在の指導者に、プレーに対する賞賛を望んでいるチームもあれば、純粋に野球が上手になりたいと考えるチームもみられた。中学時代の環境(クラブチーム, 部活動, 無所属)の違いによって、選手が指導者に求めるリーダーシップ行動には違いがあることが明らかとなった。またそれ以外の個人的属性(高校別、学年、親の野球経験)においても、指導者のリーダーシップ行動において有意な差がみられた。

【参考文献】Chelladurai, P. (1993) Manual for the leadership scale for sport. In handbook of Research on Sport Psychology.